



気になるあいつ  
わかぎゑふ

双葉社

## スピリッツ

前回、嘶家の桂吉朝さんが亡くなったことを書いた。リリパットアーミーの重鎮でもあり、私にとっては最愛の舞台人、親友だったと…。

ただ、そんな悲しみにくれてばかりいても、本人が気を悪くするだろうと思って、務めて楽しかった思い出ばかりを頭の中で検索している。特に先日まで本公演の舞台があったので、そう思うようにしてきた。

それに去年、初代座長だった中島らもが死んだ時よりも壮絶な死だったにも関わらず、ファンの人たちの対応も冷静だった。それはきつと吉朝さんの人となりもあっただろうし、「2人とも、向こうで一緒に飲ん

「でるやろうな」という生きていた時のイメージが強いからかもしれない。本当に2人とも舞台でよくはしゃいだ。それが面白いとお客さんも楽しんでた。実際は2人とも、自分の世界での責任感を果たさないといけないというプレッシャーを転化して、「楽しめるときに楽しみたい！」という裏返しの部分もあった。作家、作家としての責任感よりも、劇団で下っ端扱いされていた方が楽しいというのは人間らしい感情と言えるのだろう。ハメを外す彼らを何度、殴ったことか。

「おいおい、楽しみ過ぎられたら困るわ。こっちは真面目に芝居で食っていかなあかんねん！ 逃げ場ないねんで」

と怒った役者もいた。それでも彼らは、劇団でリフレッシュする楽しみを捨てなかった。自分の世界での重圧が大きかったのだろうか。

今回の役どころに「赤麻呂、青麻呂」という公家のパロディ的な役があった。演じたのはうちの劇団員だが、明らかに2人が生きていたら…

演ってただらうなと思うような役だった。そのせいだろうか、役者なのに演じてる者がいきなり台詞を忘れたり、日頃見せた事もない間で笑いをとっていた。

「こら、2人とも舞台に下りて来てるな」

とみんなが思った。特に大阪の千種楽はえらいことだった。天才2人の領域に叶おうなどとは思ったこともないが、舞台を楽しみたいという彼らのスピリッツはみんなで継承していききたいものだ。

---

【著者略歴】

わかぎさるふ

1959年、大阪府生まれ。女優、エッセイスト。1986年より故中島らも氏とともに劇団「リリパット・アーミー」を主宰し、現在同劇団の進化形「リリパット・アーミーⅡ」の座長。1994年より演劇ユニット「ラックシステム」を旗揚げ。演劇制作会社「玉造小劇店」を運営し、女優のみならず、脚本、演出、メイクから衣装まで芝居全般にわたりその才能を発揮し続けるスーパーレディ。主な著書に『すみっこのすみっこ』『女体の神秘』『秘密の花園』『ぬくい女』『イブの抜け穴』『大阪弁の詰め合わせ』など多数。

---